

コミュニティ・スクール情報誌

TAKO

千葉県立多古高等学校

かわら版

Vol.2



「コミュニティ・スクール」
(学校運営協議会制度)は、
保護者や地域の方々などで構
成される「学校運営協議会」
を通じて、よりよい教育を目
指すという、地域に支えられ
る学校づくりの仕組みです。

～地域とともに コミュニティ・スクール～



イチゴの花



生産流通科のイチゴの収穫



摘みたてのイチゴ



万葉園の「ろうばい」



雨の朝も、霜降る朝も、
そこにいてくれる安心感。



CS (コミュニティ・スクール) 委員の皆様の「朝のあいさつ運動」、そこには様々なコミュニケーションが生まれます。

コミュニティ・スクールの歩み

学校運営協議会 委員長 津島捷志



平成21年度から3年間の準備期間(準備委員会を設置)を経て、平成24年度から3年間コミュニティ・スクールとして学校と地域との連携、その活性化に努めてきました。

学校運営協議会においては、校長の策定する学校運営の基本方針等の承認を含め、積極的に学校経営に参画してきました。実際の活動としては平成25年度から生徒指導、進路・学習指導、中・高・地域連携の3つのプロジェクトで具体的な活動を進めてきました。

委員を中心とした登校時のあいさつ運動の継続によって、生徒との好ましい関係が築かれるとともに、生徒達の日常の

学校生活における大きな変化が生まれ始めました。授業公開、教員の授業改善と熱意・努力によって小規模学校の利点を生かしつつ、生徒一人一人の進路実現が充実し始め、成果を出しつつあります。

地域連携においては、この町の教育のあり方そのものを考えるシンポジウム「多古の子 町の子 みんなの子」集会を実施するなど、地域の方々とともにこの町の教育について考えるよい機会ともなりました。

中央教育審議会では、児童・生徒に「何を教えるか」ではなく「どのような力を身につけるか」の観点に立ち、教育のあり方が見直されています。

コミュニティ・スクールとして活動しはじめ、生徒が夢をはぐくみ、保護者に信頼され、地域から愛される学校へと一歩一歩進化を遂げつつあります。

学校からの積極的な情報発信、地域の方々との協働によって学校への協力者がさらに増え、町とともに学校がさらにさらに大きく発展することを願ってやみません。

2月2日(月) 午後3時から4時すぎまで、多古高校にてCS講演会が開催されました。

講師 岩本 悠氏

島根県立隠岐島前高等学校
魅力化プロジェクトコーディネーター

～魅力ある学校づくり×持続可能な地域づくり～(隠岐島前高校魅力化プロジェクト)

魅力ある学校づくりを、地域創生の好機へつなげる



「学校のない町に若い人は住まない。学校の活性化は地域の存続と直結する。」とおっしゃる岩本先生。島根県にある隠岐島前高校と多古高校は、交通の不便さをはじめ、共通点が多い。島前高校魅力化プロジェクトでは、課題解決型学習を通し、地球的視野を持ちながら、地域で新たな価値や事業を作りだしていける人材を育成し、町づくりと人づくりの循環構造を作っています。

廃校の危機にあった隠岐島前高校を再生させた岩本先生のご講演には、約70名が参加しました。熱気あふれる質疑応答では、予定時間を超過し、多古高校の問題点と未来を語り合いました。